

令和4年3月31日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長野市南長野幅下692-2  
管理機関名 長野県教育委員会  
代表者名 教育長職務代理人 伏木 久始

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 長野県飯田OIDE長姫高等学校  
学校長名 松原 均  
類型 プロフェッショナル型

#### 3 研究開発名

未来価値を創る玉手箱「地域協創スペシャリスト」育成プログラム

#### 4 研究開発概要

総合技術高校の強みを生かし、工業科と商業科について専門性を追究するとともに、学科間連携を通して「環境保全」、「ビジネス」、「地域資源」の有効利用の面から、多角的で実践的・探究的な考え方や行動ができ、かつ地域の産学官や異業種とも連携し、新たな付加価値・産業の創発（オープン・イノベーション）ができる「地域協創スペシャリスト」の育成を目的とする。

そのために、生徒が以下の力を身に付けることを目標とする。

- (1) 探究型プロフェッショナルとしての「高度な専門性」
- (2) 未来の地域人教育の実践を通じた主体的な「課題解決力」
- (3) 地域産学官や異業種と協働して新しい付加価値を創り出す「協創力」

#### 5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

## 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
平岡 和久	立命館大学政策科学部・教授	委員長・地域経済に関する助言等
田開 寛太郎	松本大学総合経営学部ホスピタリティ学科・専任講師	環境学習、観光学習の助言等
高田 修	飯田市副市長	行政の視点による助言等
大飼 広昭	長野県南信州地域振興局環境課長	地域経済振興に関する助言等

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
機械・電子・電気系コンソーシアム「未来ものづくり委員会」 飯田精密機械工業会 飯田電子工業会	会長（株式会社キンポーメルティック社長）野沢稔弘 会長（信菱電気株式会社代表取締役社長）川手清彦
建設系コンソーシアム「夢まちづくり委員会」 長野県建設業協会飯田支部	支部長（北沢建設株式会社代表取締役）北沢資謹
商業系コンソーシアム「地域人教育推進委員会」 松本大学（地域人教育三者連携） 飯田市（地域人教育三者連携） 飯田信用金庫	松本大学学長 菅谷 昭 飯田市長 佐藤 健 飯田信用金庫理事長 小池 貞志

## 8 カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属	雇用形態
カリキュラム開発等 専門家	久保田 優典	飯田産業センター オーガナイザー 環境産業支援コーディネーター（未来ものづくり委員会）	非常勤
	野島 登	長野県建設業協会飯田支部 理事（夢まちづくり委員会）	非常勤
	二村 謙司 ※	長野県建設業協会飯田支部 事務局長（夢まちづくり委員会）	非常勤
	秦野 高彦	飯田市公民館 副館長	非常勤
地域協働学習実施支援員	新海 健太郎	株式会社週休いつか 代表取締役	非常勤

※ 事務局長の交代に伴い、令和3年4月より牧田孝好氏から変更

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
未来ものづくり委員会					(随時実施)							
夢まちづくり委員会	1回											
地域人教育推進委員会	1回			1回		1回					1回	
運営指導委員会				1回						1回		

(2) 実績の説明

①コンソーシアムにおける活動について

機械・電子・電気系コンソーシアム「未来ものづくり委員会」

活動日程	活動内容
随時実施（全員の 参集実施なし）	・カリキュラム開発の支援、目標。 ・各種講演会、講習会、技術指導についての実施方法や時期について検討。

建設系コンソーシアム「夢まちづくり委員会」

活動日程	活動内容
令和3年4月20日 第1回会合	・カリキュラム開発の支援、目標。 ・各種講演会、講習会、技術指導についての実施方法や時期について検討。

商業系コンソーシアム「地域人教育推進委員会」

活動日程	活動内容
令和3年4月6日 第1回会合	・飯田市、松本大学、本校商業科の3者（以下3者）にて今年度の目標、授業計画、本委員会の開催予定について検討。 ・高校の授業による地域貢献に関する指導・助言のほか、今後の新型コロナ感染状況に応じた対応について指導・助言。
令和3年7月16日 第2回会合	・9月実施予定の1年生松本市フィールドスタディ及び10月実施予定の1年生飯田市フィールドスタディの内容について検討。
令和3年10月1日 第3回会合	・コロナ禍による各種行事の計画変更の合意。 ・12月地域人教育性は発表会の開催内容について検討。
令和4年2月18日 第4回会合	・今年度の総括 ・次年度に向けた検討、地域人教育推進に係る研修会の開催。

②カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

- ・飯田産業センターオーガナイザー 久保田優典 氏  
（都度依頼、謝金対応、機械・電子機械・電気機械工学科を中心としたカリキュラム開発の支援）
- ・長野県建設業協会飯田支部理事 野島 登 氏  
（都度依頼、謝金対応、社会基盤工学科を中心としたカリキュラム開発の支援と建築学科との連携支援）
- ・長野県建設業協会飯田支部 事務局長 二村 謙司 氏  
（都度依頼、謝金対応、建築学科中心としたカリキュラム開発の支援と社会基盤工学科との連携支援）
- ・飯田市公民館副館長 秦野 高彦 氏  
（都度依頼、謝金辞退、商業科のカリキュラム開発の支援）

イ 活動日程・活動内容

久保田優典 氏（機械・電子機械・電気機械工学科）

日程	内容
令和 3年 5月 28日	課題研究 研究テーマ決め・学科間連携 アドバイス
令和 3年 12月 17日	電気電子工学科 課題研究発表会 指導・講評
令和 3年 12月 21日	機械工学科 課題研究発表会 指導・講評
令和 3年 12月 22日	電子機械工学科 課題研究発表会 指導・講評
令和 4年 1月 21日	課題研究発表会 指導・講評 ・参集中止のため、個別にアドバイスをを行い、今後の授業展開について、教員に対し指導・助言。

※上記以外にも、課題研究の授業について指導・助言

野島 登 氏・ 二村 謙司 氏（社会基盤工学科・建築学科）

日程	内容
令和3年4月20日	カリキュラム開発支援目標、事業内容の実施方法と時期の検討
令和3年7月9日～ 計4回	「課題研究」インターロッキング舗装指導。 ・技術指導を含め、課題研究全般について指導・助言。 ・体験的な学習の重要性を指摘し、事業所との連携の時間を増やすよう提言。

令和3年11月8日	「現場見学会」を企画、実施・運営。 ・社会基盤工学科、建築学科それぞれのカリキュラムを作成・実施。
令和3年12月9日	「女性技術者講習会」の企画、実施、運営。 ・技術指導を含め、課題研究全般について指導・助言。
令和3年12月13日、 15日	「重機操作技術講習会」の企画、実施、運営。 ・技術指導を含め、課題研究全般について指導・助言。

秦野 高彦 氏 (商業科)

日程	内容
令和3年4月6日	・学校地域協働推進委員会に参加。昨年度の事業を踏まえ、カリキュラム開発の視点から指導・助言。
令和3年4月9日 他	・「地域人教育キックオフ」企画、実施・運営。 ・飯田市長の講演会及び各地区公民館や地域住民との連絡・調整。
令和3年7月7日	・1年生フィールドスタディの実施方法、課題発見の手法について検討。
令和3年12月23日	・地域人教育成果発表会にて、指導・講評。 ・高校生の育ちを「地域住民へ見える化する」ための助言。また、高校生の育ちを見守る「地域住民の変容に見える化する」連携方法にも助言。

### ③地域協働学習実施支援員について

ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

株式会社週休いつか代表取締役 新海 健太郎 氏 (非常勤職員として雇用、都度依頼)

イ 実施日程・実施内容

日程	内容
令和3年4月8日～ 令和4年1月31日	学校設定科目「地域活性プロジェクト」の毎時間の計画、運営について、担当教員と協議。(4月19日以降は毎週月曜日の12時30分から定例会、全23回)
令和3年4月13日～ 令和4年1月25日	科目「地域活性プロジェクト」(2単位)における生徒への講義や技術指導。連携する市内の20の企業をコーディネート。7月、10月、11月公開授業では、飯田市役所、地元企業の参加に係る交渉・調整、当日の運営を担当。
令和3年12月23日	職員向けの研修会の実施。演題「デザイン講習会」
令和4年2月～3月	学校設定科目「地域活性プロジェクト」における次年度の検討会議に参加し、本事業で目指す力の育成及び、授業全般に対し助言・指導。

### ④運営指導委員会における活動

活動日程	活動内容
令和3年7月19日 (第1回)	本年度の計画と進捗状況の確認を行ったのち4分野に分かれ、生徒発表及び意見交換(指導、助言含む)。 ・協創教育基礎 : 2年次、3年次と継続する学習に関する助言。 ・地域ビジネスと環境: 市や県で取り組む環境啓発資料等の本授業の教材化。 ・地域活性プロジェクト: 社会課題、地域課題の探究に関する助言。 ・学科連携課題研究 : 多様な災害を想定した研究に充実させること。
令和4年1月31日 (第2回)	本年度の取組状況の報告を行ったのち4分野に分かれ、自走化に向けた意見交換(指導、助言を含む)。 ・専門科目のカリキュラム開発に地域連携を組み入れること。 ・探究に関するカリキュラム開発では、すべての教員が取り組むこと。 ・地域(コンソーシアム)との連携では、目標を共有し事業を継続すること。 ・開発したカリキュラムを継続し、地域や企業とともに人材の育成を図ること。

### ⑤管理機関における取組について

ア 管理機関(コンソーシアム含む)における主体的な取組について

- ・管理機関(長野県教育委員会)は運営指導委員会を設置・開催しており、担当主事が課題研究発表会や研究開発関連授業等へ参加し、指導・助言を行ってきた。また、県の「カリキュラム編成支援事業」により、地域協働学習実施支援員を配置することで、人的支援を3年間行ってきた。
- ・機械・電子・電気系コンソーシアム「未来ものづくり委員会」、建設系コンソーシアム「夢まちづくり委員会」、商業系コンソーシアム「地域人教育推進委員会」からは、各学科を中心とした実習等の授業支援や、

講習会・講演会等の開催の支援を受けている。

イ 事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・本事業の推進を学校経営の核と据え、該当校のグランドデザインを本事業の目的・目標に重ねることで、事業終了後も学校の教育活動全般で本事業内容を継承できるよう、継続的に指導した。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

	業務項目	実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高度な専門性	ア 各種技術講習会等(生徒)				1回			5回	5回	3回		1回	
	イ 各種技術講習会等(教員)									2回			
課題解決力	ア 商業科「地域人教育」	8回	6回	7回	6回	3回	8回	9回	8回	10回	7回	6回	
	イ 「課題研究」における学科融合グループの研究及び授業実践	1回	2回	2回	2回		3回	5回	3回	4回	2回		
	ウ 共通教科「協創教育基礎」の研究及び授業実践					1回	98回	21回		21回	6回	2回	
	エ 学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究及び授業実践	44回	56回	49回	44回	44回	16回	56回	42回	42回	28回	20回	
協創力	ア 学校地域協働推進委員会の運営												
	イ 学校設定科目「地域活性プロジェクト」の研究及び授業実践	4回	6回	7回	3回	1回	6回	6回	7回	5回	4回		
	ウ UVプリンタの活用研究				3回		3回	5回	6回	7回			

### (2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・「高度な専門性」の育成に係る研究開発について

ア 各種技術講習会等(生徒向け)

カリキュラム開発等専門家による課題研究「インターロッキング舗装ができるまで」

7/9(金)～11/26(金)全10回 社会基盤工学科3年生16名

建築士会と連携した課題研究ワークショップ 5/28(金) 建築学科3年生 38名

建設現場安全教育講習会 10/13(木) 建築学科、社会基盤工学科 3年生 77名

長姫建築会と連携したOBによる社会人講演会 12/9(木) 建築学科 2年生 38名

県建設業協会と連携した建設業で活躍する女性技術者講習会 12/9(木) 社会基盤工学科 2年生 36名  
建築学科 1年生 36名

重機操作技術講習会 12/13(月)・15(水) 社会基盤工学科1年生 35名

建築士会と連携した課題研究ワークショップ及び講評 12/23(木) 全建築学科 113名

なお「タッチパネル表示システム(GOT)を用いたシーケンス制御」は2/19(土)、20(日)実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した(電気電子工学科2・3年生10名)。

イ 各種技術講習会等(職員向け)

UVプリンタ技術講習会 12/21(火)、22(水) 職員18名

デザインに関する指導力向上講習会 12/23(木) 職員10名 講師：株式会社週休いつか 新海健太郎氏

なお、「地域公開講座」は計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

・「課題解決力」の育成に係る研究開発について

ア 商業科「地域人教育」

1年生 「地域人教育」学校設定科目、1単位、75名

4月～7月 高大連携講義、7月～9月 自分史制作、7月～2月 探究基礎学習  
(飯田市内、松本市内フィールドスタディはコロナ禍により中止)

2年生 「地域人教育」学校設定科目、2単位、74名

4月～2月 探究基礎学習 10月 ビジネスマナー講習会  
(地域イベントの企画・運営、インターンシップはコロナ禍により中止)

3年生 「課題研究」3単位、80名

4/9(金)～1/21(金) 飯田市内10地区で公民館主事と連携し「課題研究」を実施  
12/22(水)「地域人教育成果発表会」にて取組を報告

イ 「課題研究」における学科融合グループの研究及び授業実践

機械工学科、電気電子工学科、社会基盤工学科の3学科連携による「課題研究」 通年  
研究内容「防災ベンチの製作」 3学年 5名

ウ 共通教科における「協創教育基礎」の研究及び授業実践

全学科1年生への授業実践 8月～2月

国語、地歴公民、数学、理科、保健体育、音楽、美術、書道、外国語

エ 学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究及び授業実践

全学科2年生への授業実践 4月～2月

11/30(火) 環境分野における外部講演会及び実習

学習テーマ：これからの原子力について

講師：日本原子力文化財団 近野俊治氏・信州大学基盤研究支援センター准教授 廣田昌大氏

・「協創力」の育成に係る研究開発について

ア 学校地域協働推進委員会の運営

今年度はコロナ禍により参集開催なし

イ 学校設定科目「地域活性プロジェクト」の研究及び授業実践

選択者：各専門学科 3年生 49名

担当者：各専門学科代表教員5名及び地域協働学習実施支援員1名 計6名

内容：学科融合及び企業連携(20社)による探究学習

課題の発見 4月～7月

課題の設定 8月～10月

設定した課題の分析、解決策の発案 11月～12月

ポスターによるプレゼンテーション(発表会) 1/13(木)、18(火) (コロナ禍により中止)

ウ UVプリンタの活用研究

・職員対象の技術講習会を実施 12月 職員18名

・機械工学科・電子機械工学科・電気電子工学科 課題研究におけるプリンタ活用 7月～12月

・商業科3年 課題研究 ノベルティグッズ制作 9月～11月

・海外交流事業については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2・3年度の渡航を断念。現在、オンラインを活用した交流や、令和5年12月に台湾の国立虎尾高級農工職業学校との海外交流実施に向け、長野県海外交流コーディネータとの打ち合わせを継続中。

- ②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付けについて（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）
- ・商業科「地域人教育」（①課題解決力 アに記述）
  - ・「課題研究」における学科融合グループの研究及び授業実践（①課題解決力 イに記述）
  - ・学校設定科目「地域ビジネスと環境」の研究及び授業実践（①課題解決力 エに記述）
  - ・学校設定科目「地域活性プロジェクト」の研究及び授業実践（①協創力 イに記述）
- ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
- ・共通科目における「協創教育基礎」の授業実施（①「課題解決力」ウに記述）
  - ・学校設定科目「地域ビジネスと環境」の授業実施（①「課題解決力」エに記述）
  - ・学校設定科目「地域活性プロジェクト」の授業実施（①「協創力」イに記述）
- ④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制について
- 昨年度から校内分掌として「地域協創推進室」を配置し、各コンソーシアム等との連携を強化している。各科の代表、普通教科の代表が常駐しているため、協創力育成を目指す取組や、教科横断的な学びを推進に向け校内の連絡・調整を行う体制が構築できた。
- ⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
- 校務分掌「地域協創推進室」の教員が中心となり、コンソーシアムの運営及び開発した授業の運営を担った。「協創教育基礎」では、共通教科の代表者1名が教科毎の授業計画や進捗を管理したほか、テキスト改訂や著作権許諾の支援にあたった。「地域ビジネスと環境」では、工業科・商業科の代表者各1名が全体の進捗を管理したほか、評価の研究にあたった。「学科連携課題研究」では、工業科の代表者1名が進捗を管理したほか、連携企業との調整を担当した。
- ⑥カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
- 各コンソーシアムのカリキュラム開発等専門家とは日常的に情報交換を行い、「高度な専門性」や「課題解決力」を向上させるための講演会、技術講習会の実施や「課題研究」「地域人教育」の運営を支援していただいた。また、地域協働学習実施支援員には、主に「地域活性プロジェクト」における地元企業連携20社のコーディネイト業務や探究学習に関わる講義などを実施していただいた。
- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- 校務分掌「地域協創推進室」にて進捗管理を行った。また、成果を図るために、講演会終了後や授業のまとめとして定性、定量の双方のアンケートを取り、その結果を関係者と共有し改善を図るための会議を開催した。
- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- 「高度な専門性」の講習会及び講演会の題材や講師について、各コンソーシアムから適切な指導・助言をいただき、各コンソーシアムから講師派遣をしていただいた。また、「課題研究」「地域人教育」について、企業や地域住民とのコーディネイト業務や教員、生徒への直接的な助言などをしていただいた。
- ⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
- 立命館大学平岡委員からは飯田市の域学連携「学輪 I I D A」に参画する大学教員の出前講義をコーディネイトいただいた。長野県南信州地域振興局環境課犬飼委員からは「信州ゼロカーボンBOOK」を提供いただき、「地域ビジネスと環境」の教材として活用し、環境に関する意識を高めることができた。
- ⑩類型毎の趣旨に応じた取組について
- ・専門性を高める講習会等の実施（①高度な専門性のアに記述）
  - ・産業界との連携による取組（①～③に記述）
  - ・高大連携の取組

- 飯田市の域学連携「学輪IIDA」に参画する大学教員による特別講義 対象：商業科1年生  
 6/23（水）「飯田におけるソーシャルキャピタル」名城大学 福島 茂 先生  
 7/1（木）「遠山郷エコ・ジオパーク」松本大学 田開 寛太郎 先生  
 7/7（水）「飯田における地域経済のカタチ」大月短期大学 槇平 龍宏 先生

①成果の普及方法・実績について

- ・公開課題研究発表会（機械工学科 12/21（火）、電子機械工学科 12/22（水）、電気電子工学科 12/17（金）、建築学科 12/23（木）、社会基盤工学科 1/18（火））
- ・地域人教育成果発表会（商業科 12/22（水））
- ・全校課題研究発表会 学科連携型課題研究の発表、地域活性プロジェクトのポスター展示 1/21（金）  
（コロナ禍により中止）
- ・学校ホームページの専用ページ及び学校長ブログにより、取組状況を日々公開。
- ・公開授業（6/29（火）、10/14（木）、11/4（木）、12/15（水）、1/13（木）、1/18（火））
- ・視察、訪問受入 今年度はなし
- ・発表 長野県産業教育振興会 春季総会 5/21（金）、秋季総会 11/5（金）  
産業教育フェア埼玉大会 10/30（土）、日本環境教育学会 第2回中部支部大会 12/18（土）
- ・掲載 機関誌『工業教育』7月号、機関誌『商業資料』116号

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 「高度な専門性」の育成に係る研究開発について

ア 各種技術講習会（生徒向け）

各教科・科目の目標に対する評価に加え、社会人基礎力の12の評価指標から下表中の①～③の指標を評価規準として成果を確認した。生徒アンケートを実施し、定量目標については1～5のいずれかを選択する5段階評価を行った。（目標平均値3.5以上）

評価結果（カッコ内は昨年の値）

	①傾聴力	②計画性	③主体性
各種講習会后評価平均	4.6 (4.3)	4.3 (4.5)	4.6 (4.5)

建設安全教育講習会、女性技術者講演会では、講習会のテーマが就職先等で必要となる技術であることから、両学科の生徒とも評価が高い。また、地元の企業経営者の講演会、建築士会の協力のもと実施した課題研究ワークショップ、発表会の講評のアンケートにおいて「建築士の資格は地域の災害にも役立てると実感した」、「地域の環境を考えて自分の選択を広げられるように挑戦していきたい」、「地域について考えた建築物を設計していきたい」などの記述があり、「③主体性」の伸長につながっている。

(2) 「課題解決力」の育成に係る研究開発について

(1)アと同様に、下表中の①～⑤の指標を評価規準として成果を確認した。生徒アンケートを実施し、定量目標については1～5のいずれかを選択する5段階評価を行った。（目標平均値3.5以上）

ア 商業科「地域人教育」

評価結果（カッコ内は昨年の値）

実施時期	①課題発見力	②創造力	③発信力	④主体性	⑤実行力
学習前（6月）	3.0 (2.9)	2.9 (2.7)	2.9 (2.8)	3.2 (3.0)	3.1 (2.8)
学習後（1月）	3.7 (3.8)	3.7 (3.8)	3.5 (3.8)	4.0 (4.0)	3.8 (3.9)
上昇ポイント	0.7 (0.8)	0.8 (1.1)	0.6 (1.0)	0.8 (1.0)	0.7 (1.1)

3年生は例年通りに10地区に分かれ、飯田市の公民館主事とともに、地域活性化に向け多様な活動を行う

ことができたことで、「②創造力」や「④主体性」を中心に、育成を目指した力が向上している。

#### イ 学科融合グループの課題研究

##### 評価結果

実施時期	①課題発見力	②創造力	③発信力	④主体性	⑤実行力
学習前（6月）	2.5	2.8	3.0	3.0	3.3
学習後（1月）	4.3	4.3	4.3	4.0	4.0
<b>上昇ポイント</b>	<b>1.8</b>	<b>1.5</b>	<b>1.3</b>	<b>1.0</b>	<b>0.7</b>

3年生3学科計5名の生徒が、同じグループで「課題研究」を行い、1年間を通して防災ベンチの製作・研究を行った。他学科の専門分野の内容に触れながら研究を進めることができたことで「①課題発見力」が身に付いたと感じた生徒が多かった。

#### ウ 共通教科における「協創教育基礎」の研究と授業実践

##### 評価結果

学年・時期	①課題発見力	②創造力	③発信力	④主体性	⑤実行力
3年生・2月	3.3	3.7	3.9	3.6	3.4

各教科の授業は生徒の興味を十分に引き出すことができる題材・内容であり、授業において自分の考えを発表する場面を設定したことで、自身の「③発信力」の向上を認識した生徒が多い。「課題研究のテーマを自分で決めるきっかけになった」と感じ、2年次以降の学習につながる「気づき」を得た生徒も多く、今後の各教科における知識・技能の習得への意欲につながるカリキュラムが開発できた。

#### エ 学校設定科目「地域ビジネスと環境」における研究と授業実践

##### 評価結果

学年・時期	①課題発見力	②創造力	③発信力	④主体性	⑤実行力
2年生・2月	3.9	4.1	3.7	4.0	3.9

情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった学習サイクルを行うことで、学習活動を新学習指導要領にそった3観点で評価できる授業が実践できた。身近な生活の近未来化や地球環境・地域環境・生活環境、SDGsについて触れ、「他人ごと」ではなく「自分ごと」として自分たちの将来・未来を意識するきっかけになったことで、「②創造力」や「④主体性」が身に付いたと感じた生徒が多かった。

### (3) 「協創力」の育成に係る研究開発について

#### 学校設定科目「地域活性プロジェクト」の研究と授業実践

(1)アと同様に、下表中の①～④の指標を評価規準として成果を確認した。生徒アンケートを実施し、定量目標については1～5のいずれかを選択する5段階評価を行った。（目標平均値3.5以上）

評価結果（カッコ内は昨年の値）

	①規律性	②創造力	③働きかけ力	④柔軟性
学習前（6月）	3.9 (3.6)	3.2 (2.8)	3.0 (2.8)	4.0 (3.5)
学習後（1月）	4.3 (3.9)	3.9 (3.8)	3.8 (3.5)	4.5 (3.9)
<b>上昇ポイント</b>	<b>0.4 (0.3)</b>	<b>0.7 (1.0)</b>	<b>0.8 (0.7)</b>	<b>0.5 (0.4)</b>

専門学科が融合し、かつ地元企業20社と連携した探究学習を実施したことで、全ての指標が目標値を上回り、特に「②創造性」の向上を認識した生徒が多かった。生徒アンケートからは、学科融合や企業連携に対する肯定的な意見がほとんどを占め、他学科の生徒や企業人とのコミュニケーションを図れ、多様な価値観に触れることができるカリキュラム開発ができた。

<添付資料>目標設定シート

## 1.2 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 本事業に関する管理機関の課題や改善点について

コロナ禍の影響もあり、事業指定2年目以降、公開授業や課題研究発表会等が十分に実施できず、先進的な実践内容やその成果についての普及が進んでいない。また、他校の生徒とともに学び合う場への参加の機会が少なく、全県の生徒との学びの共有や発信も十分とは言えない。今後、専門学科を設置する高校を中心に、校長会や専門学科の研究会を活用して「学科連携」や「学科融合」の取組内容を普及できるよう管理機関としても支援し、各校が連携して取組を深化させることで、総合技術高校の強みを生かしたカリキュラム開発につなげたい。

### (2) 研究開発にかかる課題や改善点について

本校における研究開発は、「地域と協働して探究的に学ぶ」取組を各専門学科の授業や、教科・学科を横断した学校設定科目の授業を中心に行ってきた。その中で実践した新たな教育課程の編成や、授業カリキュラムの開発・実践などは多岐にわたるため、次年度に向け、内容を整理・統合し、継続するものを精査する必要がある。

現在、3つの研究開発目標のうち、コンソーシアムと連携した「高度な専門性」「課題解決力」の育成を目指す取組は、工業科・商業科の各学科を中心に継続し、「協創力」の育成を目指す取組については、校務分掌「地域協創推進室」を中心に、学校設定教科「総合技術」の「地域ビジネスと環境」「地域活性プロジェクト」の授業で取組を継続することを検討している。

また、「地域と協働して探究的に学ぶ」本校独自のカリキュラムについて、本校生徒の内発的動機を高める取組が不足していることや、中学生やその保護者、地域、地元企業などのステークホルダーに対しての取組内容や成果の周知が不足していることが課題として挙げられる。探究学習に関する教員研修の充実も必要であると認識しており、次年度以降、順次改善を図っていく予定である。

### (3) 自走に向けた方向性について

#### ①コンソーシアムについて

工業科・商業科の各学科と連携した3つのコンソーシアムは事業終了後も組織を継続し、「高度な専門性」と「課題解決力」の向上を目指す取組を中心に支援を得て、「地域と協働して探究的に学ぶ」取組を行う。また、新たな支援体制を構築して、地域協働学習実施支援員のコーディネートによる「地域活性プロジェクト」の授業実践を継続するとともに、1、2年次の授業でも「協創力」の向上を目指す取組を増やすため、学校設定教科「総合技術」を中心に支援を得ながら協働したい。

#### ②開発したカリキュラムについて

「高度な専門性」の育成は専門学科の学びとして継続する。また、本事業で開発した1年次「協創教育基礎」（共通教科内で実施）と2年次「地域ビジネスと環境」の授業において「課題解決力」の育成を目指し、3年次「学科連携課題研究」や「地域活性プロジェクト」を中心に「協創力」の育成を目指す3年間の一環プログラムを、産業教育版「地域探究学習プログラム」として運用することを検討したい。

#### ③学校の体制について

学校長の下、校務分掌「地域協創推進室」の配置を継続し、コンソーシアムや開発したカリキュラムの運営、改善を図る。具体的には、校務分掌「地域協創推進室」を中心に、必要経費確保に向けての取組や、学校設定教科「総合技術」の内容の改善・充実、探究学習プログラムに関する研究を行い、校内外に対して、本校独自のカリキュラムの周知や理解を図る。引き続き、本校のグランドデザインを本事業の目的・目標に重ねることで、学校の教育活動全般で本事業内容を継承していく予定である。